

アフリカの地で多くの命を救った郷土の誇り 京丹後市名誉市民 故・谷垣 雄三 氏の 御遺品を寄贈いただきます

令和7年11月26日
京丹後市役所

京丹後市では、昨年11月に開催した京丹後市市制20周年記念式典にて、故・谷垣雄三氏に「京丹後市名誉市民」の称号を贈り顕彰したところです。

この度、「谷垣雄三・静子夫妻記念事業実行委員会」の皆様から、同会保管の谷垣夫妻が作成したニジエールでの写真アルバムや絵画2点（故・谷垣静子氏作）など貴重な御遺品寄贈の申し出をいただき、下記の通り引き渡しを受けますのでお知らせいたします。

■寄贈の概要

日 時：令和7年12月1日（月） 9時15分～9時45分

場 所：京丹後市役所 峰山庁舎 2号館2階 221会議室

出席者：<寄贈者>

谷垣雄三・静子夫妻記念事業実行委員会

世話人 川本晴夫 様（「外科医 谷垣雄三物語」著者）

安城康平 様（「谷垣静子絵画集」著者）

山形茂生 様（NPO法人アフリカ日本協議会 事務局長）

<受贈者>

京丹後市長 中山 泰、京丹後市教育委員会教育長 松本 明彦

<同席者> ※地元関係者の皆様

谷垣雄三医師を支援する会関係者、京丹後ロータリークラブ関係者 など

寄贈品：・谷垣夫妻が作成したニジエールでの写真アルバム 10冊

・絵画2点
$$\left. \begin{array}{l} \text{①「安息の旅へ」(油彩、52×67、1984)} \\ \text{②「子守歌」(油彩、52×67、1987)} \end{array} \right\}$$

・書籍「ニジエールを描く 谷垣静子絵画集」 2冊 他

内 容：市長挨拶／実行委員会代表挨拶／関係者挨拶／写真アルバム等寄贈

■寄贈の経緯等

今回、貴重な写真アルバム等の遺品を寄贈くださる「谷垣雄三・静子夫妻記念事業実行委員会」は、谷垣雄三氏の医療活動と静子夫人の作画活動を顕彰するため、谷垣氏の大学時代の山仲間（信州大学ワンドーフォーゲル部）およびJICAのニジェール関係者などが中心となり2019年に結成され、これまで15回に及ぶ企画展や、「外科医 谷垣雄三物語」「ニジェールを描く 谷垣静子絵画集」の出版など7年間にわたり精力的に活動してこられました。

そして、昨年11月に谷垣氏が京丹後市名誉市民となったことを活動の節目として同会解散の準備に入れられ、このたび、同会が保管する写真アルバムや静子夫人作の絵画などの遺品について当市に寄贈することもって同会を解散される予定とお聞きしています。（別添「世話人だより 最終号」参照）

については、これまで京丹後市内で谷垣医師の活動支援及びその顕彰に携わってこられた関係者の方々にも見届けていただくべく同席していただくこととしています。

【問合せ先】 京丹後市 市長公室 秘書広報広聴課 秘書係
電話：0772-69-0110 FAX：0772-69-0901

(谷垣雄三氏の功績概要)



本市峰山町出身の故・谷垣 雄三氏は、遠く、アフリカ・ニジェールの地に延べ36年間滞在し、貧しい地方で援助に頼らない自立した医療体制をつくるため、独自の医療構想を打ち出し、私財を投じて2度にわたる医療施設建設なども行いながら、厳しい医療環境の中で延べ1万2千回を超える手術を行うなど、「ニジェールの野口英世」と呼ぶ人さえいる（※）ような、ニジェールでの医療活動、医療体制の確立に生涯を捧げ多大な貢献をされました。（※）シチズン・オブ・ザ・イヤー賞評価より

(主な受賞歴)

1994年（平成6年）	読売国際医療功労賞
2008年（平成20年）	シチズン・オブ・ザ・イヤー賞
2009年（平成21年）	読売国際協力賞
2010年（平成22年）	京都オムロン・ヒューマン賞
2010年（平成22年）	公益財団法人社会貢献賞

(谷垣氏顕彰に関する最近の動き)

2022年（令和4年）5月	外科医 谷垣雄三物語（川本晴夫）出版
2023年（令和5年）5月	谷垣雄三医師夫妻顕彰展（京丹後ローラリークラブ主催）開催
2024年（令和6年）7月	Dr.タニ ひとつぶの麦（おぎのしんさく）出版
2024年（令和6年）11月	京丹後市名誉市民として顕彰

(参考：略歴)

西暦	和暦	出来事
1941年	昭和16年	峰山町で生まれる。 その後峰山小学校、峰山中学校、峰山高等学校を卒業。
1961年	昭和36年	信州大学医学部入学
1967年	昭和42年	信州大学医学部卒業
1979年	昭和54年	国内の病院で医師として勤務した後、IRSA（ウラン鉱試掘調査）の嘱託医としてニジェールに渡る。
1980年	昭和55年	ニジェールから帰国後数年間、フランス語を学びながら東京都内の病院に勤務。
1982年	昭和57年	再度ニジェール行きを希望し、JICA（国際協力機構）から医療専門家としてニジェールに派遣される。首都ニアメの国立病院の外科医として赴任。静子夫人も同行。
1992年	平成4年	「地方住民への外科医療を充実させるために地方に外科施設が必要」とニジェール政府へ提案。国土中央のテッサワに、自費で外科診療所「パイロットセンター」（試験的病院）を建設。援助に頼らない自立した医療活動に乗り出す。
2001年	平成13年	JICA派遣の任期が終了、自費で活動を継続。 NPOアジア・アフリカにおける医学教育支援機構、横浜港北ロータリークラブ、出身地峰山町などの間に谷垣医師支援の輪が広がる。
2002年	平成14年	旧パイロットセンターを撤収。 再度、テッサワに自費で新パイロットセンターを建設。
2002年	平成14年	丹後地方在住の同級生ら20人で「谷垣雄三医師を支援する会」（以下「支援する会」）が発足される。以降、地元支援の取組が展開される。
2002年 以降	平成14年 以降	峰山小学校、長岡小学校、峰山中学校、峰山高校で、手術で使用するタオルを集めて送る支援が行われる。
2004年	平成16年	テッサワのパイロットセンターに、地元からの支援への感謝の印として「峰山門」を設置。 支援する会が、アフリカと丹後を結ぶ「友情の記念碑」を峰山総合公園入口に建立。
2007年	平成19年	京丹後市に帰郷。支援する会をはじめ、支援協力した学校や市役所を訪問し、感謝の言葉を伝える。 住民負担の地方外科を確立する目的を達成。これまで取り組んだ成果をまとめ、フランス語で提言書を作成、発表会をニアメで開く。
2017年	平成29年	ニジェール・テッサワにて永眠（享年満75歳）。
2019年	令和元年	パイロットセンターが「ユウゾウ・タニガキ県病院」に生まれ変わり、テッサワ地方の基幹的な機能を持つ総合病院となる。
2020年	令和2年	静子夫人と住んでいたテッサワの住居は「マダム・シズコ保健センター」に生まれ変わり、産院があり、母親が安心して出産し、母と子の命と健康を守る施設となる。

※出展：「外科医 谷垣雄三物語」（川本晴夫）

「Dr.タニ ひとつぶの麦」（おぎのしんさく）

新聞報道記事（京都新聞、讀賣新聞、朝日新聞、産経新聞）

世話人だより



実行委 解散決まる

投票数 20、うち賛成 19 票

谷垣雄三・静子夫妻記念事業実行委員会の解散が正式に決まりました。書面(はがき)による投票の結果、投票数 20 のうち、賛成 19 票で、投票数の過半数を超えるました。「アジア・アフリカにおける医学教育支援機構」(解散)から預かっていた静子夫人の遺作 2 点について、京丹後市が保管する旨の連絡があり 12 月 1 日、引き渡すことになりました。同日が解散日となります。

き、15 回の企画展(協力も含め)を彩りました。

アルバムは 10 冊に上り、遺作 2 点に先立ち京丹後市に郵送で寄贈しました。

絵画は、信大や松本蟻ヶ崎高同窓会、大阪 AALA などに寄贈し、一部販売し寄金をいただきました。

また、「外科医谷垣雄三物語」「ニジエールを描く谷垣静子絵画集」を発行し、販売・寄贈しました。

遺作 2 点 12 月 1 日引き渡し

実行委員会が 2018 年 11 月、谷垣氏の医療活動と静子夫人の作画活動を顕彰するため(規約第 3 条)発足しました。元 JICA ニジエール支所長の山形茂生氏、

元青年海外協力隊調整員の安城康平氏の 2 人が波里美知会に参画。山形氏の尽力で、夫妻の生活を収めた写真アルバム、100 点超の静子夫人の絵画が日本に届